



特集 『館林支部』誕生!!

近年における母校館林高校の躍進とともに、同窓会活動も活発であり、素晴らしい歩みが続いている。
大勢の出席者で活況の総会、益々盛会の親睦ゴルフ大会、なかでも支部結成は、大泉、板倉、東京、千代田、太田、明和、邑楽、足利と相次ぎそれぞれ活発な活動を行っている。そんな中昨年、母校のお誘い元、待望の館林支部が誕生した。六千名余の巨大な底辺を持つと言われる館林支部、その誕生までの足取りを追ってみよう。

祝 館林高等学校同窓会館林支部設立総会

平成21年10月15日 館林文化会館瑞雲の間



設立までの経緯

これまで各支部に支部が誕生して行く過程の中で、館林支部結成への声は内外よりあがった事はあったが、館林地区より本部役員を多数出していることもあり、はたして館林支部をつくる必要性があるのか、との意見も出て機が熟するまでには至らなかった。そんな中、数々の同窓会改革を手掛けてこられた岩瀬同窓会会長が歴史の歯車を動かした。

母校創立90周年まで5年と迫った本部役員会において、岩瀬会長より「これからの同窓会の永続的発展のためには、本部組織を支えるしっかりとした支部組織が必要だ。館林支部もその中心になってもらいたい。母校のお誘い元に館林支部の結成を検討してほしいか」との要望が出された。
岩瀬会長の意は重く受け止められ早速その意向を踏まえて昨年6月15日館林在住の本部役員10名でまず意見交換を行った。支部設立発起人代表に小橋泰男氏、支部長候補に遠藤

和昭氏を、市内在住の学年幹事にも参加してもらうことを申し合わせ、館林支部結成への歩みを本格化して行った。小橋代表を中心に館林在住の本部役員と学年幹事から成る支部結成準備会を立ち上げ、何度かの会合を重ねながら総会への準備を着々と進め、ついに10月15日の設立総会を迎えることとなる。

設立総会・懇親会

平成21年10月15日午後6時より館林文化会館において、館林支部設立総会が総員64名の参加を得、盛大に開催された。
総会は、小橋設立発起人代表の経過報告の後、小橋氏を委員長として議事に入り館林支部の会則、支部役員案が全員一致で承認された。ここで議長が新任の遠藤支部長に交代し支部役員を紹介した。21年度事業計画、予算案も全会一致で承認された後、来賓の岩瀬同窓会会長の挨拶、猪熊校長より母校の近況報告をいただき総会を閉会。

引きつづき懇親会に移り、前山幹事の乾杯の音頭で宴会に入った。飲むほどに高校時代の思い出や第二の人生の楽しさなどを語り合い大いに旧交を温め合う事が出来た。最後に出席者全員で思い出の新しい校歌を声高らかに合唱して、しばし何十年前の感慨に浸る。まだ校歌の余韻の残る中、山崎幹事の閉会の挨拶で散会となったが、それぞれが心満たされ、再会を約束し会場を後にした。



遠藤支部長..談

この度、館林支部長を引き受けることになりました。大先輩、諸兄大勢居られる中、若輩の私がはたしてこの重責を全うできるか確たる自信は御座りませんが、総会においてご指名を頂いた以上、館林支部発展のため全力を尽くす所存であります。出席して楽しかったと思われるような、そして若い人たちにも気軽に参加して頂けるような支部を目指して行きたいと思っております。会員の皆様方のご支援ご協力を宜しくお願い致します。



来年創立九十周年を迎える

会員皆様にはお元気でそれぞれのお立場で活躍のことと存じます。また、皆様方には常日頃より同窓会発展充実のために格別なるご支援ご協力を賜わり心から感謝とお礼を申し上げます。

あいさつ

母校館林高校もお皆様で歴代の学校関係者、同窓生皆様そして地元関係皆様の限りないご支援をいただき、大いなる歴史を積み重ね、来年は創立九十周年を迎えることになりました。

あいさつ

二十一年度(平成二十一年)に校長として着任いたしました。微力ではありますが、本年度も館林高校のより一層の充実発展のために、学校運営に全力を尽くすつもりです。特に、これから社会の中心で活躍していく館林高校の生徒たちにとって、「自己実現をとおりして、社会に貢献するための学び」を追究していくことが、大きな課題であると思っております。

さて、私は責任者、ご案内をいただきました同窓会とご支援のほどとに出席させていただきます。その折に、同窓生の皆様から心もった激励とご指導をいただきましたことに、この場をお借りして深く感謝申し上げます。学校の状況につきまして、簡

ついでには記念事業を計画実行するために実行委員会を結成いたしました次第です。今後とも皆様方のご支援ご協力をいただき感動に満ちた記念事業を実施できればと思



同窓会長 岩瀬 秀市

ております。私達の住む日本は決していい国いい社会とは書えないと思います。私達人が本気になって、日本の将来のことを考え、次の世代の子

ども達のために世界に誇れる生き方の見本を見せ、指導し語りかけていくべきだと思います。

私は思います。今の子ども達が健全に育つ基本は「本物のやさしさ」だと思います。このことをこれからの子ども達のためにも、又日本の将来のためにも考えて欲しいと思います。

今後とも皆様方と共に母校の発展充実を願いながら力強く歩み続けて参りたいと存じます。ここに会報発行十二年目を迎え関係皆様のご苦勞に心から感謝を申し上げますと共に同窓会皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。



校長 猪熊 仁

に報告させていただきます。本年三月一日に、平成二十一年度の卒業式が挙行され、全日制三三九名、定時制十二名が卒業し、新たに同窓会に入会いたしました。後輩達に暖かいご指導とご支援をいただければ幸いです。二十一年度も無事にスタートしました。正門前の桜並木が満開の四月八

日に、入学式が挙行され、全日制二四〇名、定時制二六名が入学しました。本年は三年に一度の文化祭である大成祭を、七月十七日、十八日の二日に開催しました。たいへん暑い中でしたが、同窓会長様をはじめ、多くの同窓生の皆様にご来場

いただきました。後輩である在校生が頑張っている様子を見ていたことができました。また、この大成祭にあわせまして、「第一回学年進路校内討論大会」を開催いたしました。従来の「一校一校討論大会」につきましては、昭和四十三年二月十三日に「第四十回校内討論大会」を開催したという記録はありますが、その後は、諸般の事情で進捗していません。それを、四十二年ぶりに復活したものが、今回の「第一回学年進路校内討論大会」です。基本討論を急めて八人の井土は高校生らしい、情熱的で清新な討論を展開し、聴衆の共感を博しました。



坂間ロクリニツク校長

また、他の部活動もたいへん頑張っております。詳細は進路状況とともに後の部面をご覧ください。在校生は、同窓の諸先輩の励みを受けた自信を持って受け継ぎ、またさらに成果を上げるべく文武両道に励んでおりますので、これからもご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

OBが学校へ

平成21年度 開校記念講演会

去る十一月十一日(水)に母校体育館にて開校記念式が実施された。その際の記念講演は、例年各界で活躍中の諸先輩方を、お迎えしている。今回は現在、赤坂関ロクリニツクの校長でいらっしゃる関ロクリニツク氏に講演していただいた。演題は「これが館林生の進むべき道だ」である。氏は昭和二十七年に本校を卒業後、群馬大学を卒業、ドイツ留学を経て東京女子医大教授、信州大学医学部教授等を歴任、心臓病の世界的権威でいらっしゃる。

OBによる

職業別進路講演会

六月五日(土)五・六時限目に、一年生を対象としたOBによる職業別進路講演会が開催されました。各分野で活躍されている本校OBの方々八名をお招きし、後輩たちの将来のために、大変役に立つ貴重な講演をしていただきました。

生徒の感想では、進路選択に役立つ、最先端の専門的な話が聞けて貴重な体験ができた、職業について知らなかったことや、仕事の厳しさ、奥深さ、やりがいを知った等があり、生徒にとって有意義な時間になりました。



- 【講師の方々(敬称略)】
- 中野 栄一 ホテルグランドパレス
 - 本澤 博幸 東武トラベル
 - 飯上 光一 慶友整形外科病院
 - 渡辺 伸 群馬銀行
 - 新宮 裕之 館林市役所
 - 正田 茂 富士重工株式会社
 - 本田 佳伸 ITフロンティア
 - 中村 真 空間設計室

学年同窓会など

東京の版倉会、初の地元開催

平成二十二年三月二十七日、版倉会は、会設立以来初めて地元版倉で開催されました。当会は二十二年前の平成元年に、版倉出身の館林高校卒業生で首都圏に在住、在勤の〇日が集う懇親会としてスタートしました。現在、会員は八十余名居ますが、勿論、上は旧制館林中学卒業の方もおり、多士済々です。活動としては、年一回の新年会と、従来、当会が行っていたゴルフ懇親会も本部ゴルフ大会に合流してやっています。



当日の板倉会は三十名の参加を得て、初めての地元開催というところで、地元から町長、教育長、課長三人、町議会議員三人、それに地元選出の県議会議員や板倉ニュータウン関係の副職員等々を含めて半数が地元参加者になりました。

版倉は、会設立以来初めて地元版倉で開催されました。当会は二十二年前の平成元年に、版倉出身の館林高校卒業生で首都圏に在住、在勤の〇日が集う懇親会としてスタートしました。現在、会員は八十余名居ますが、勿論、上は旧制館林中学卒業の方もおり、多士済々です。活動としては、年一回の新年会と、従来、当会が行っていたゴルフ懇親会も本部ゴルフ大会に合流してやっています。

ヤンバスのパイオ部門との連携、街づくり等々町政全般の現状報告があり、最後に板倉会の首都圏在勤・在住者に対するニュータウンや工場誘致関連等種々の協力要請がありました。

加野英一県議会議員からは議会報告、県議員からは県所管の板倉ニュータウンや工業団地開発に対する協力要請がありました。

参加者全員の三分開スピーチでは、首都圏及び地元の方々が時間オーバーで思いのままの話を進めると夏会ムードは一気に和んでいき、和んでいきました。特に首都圏からの参加者には遠い昔の田舎の思い出が蘇って来て、笑いあり、涙あり、感動のシーンも多々見られました。

地元と首都圏参加者が互いに杯を差しつ差されつ、和やかな雰囲気漂っていました。

なお、当会は、地元自治体や町民から「町発展の為に協力して欲しい」という要請が強まり、その一環として地元開催となりました。また時代の要請もあって会員資格を館林高校卒業生以外にも門戸を開き、さらなる発展をめざしています。

(山岸 正記)

卒業60年の同級生

23・24・25年卒同級生

私達の同級生は昭和23・24・25年と三回に分かれて卒業しました。つまり旧制中学4年と同5年卒業に新制高校2年生の卒業というわけです。入学時は約一五〇名程でしたが、戦争中の疎開で一八〇名程になったとは言え、卒業したのは4年23名、旧制中卒9名、新制高卒一〇八名というデータがあります。しかし、その後約60名の方が逝去され、現在連絡のつく同級生は約一〇〇名というところです。



林市内で開催し、今年も五月十四日に駅前ミヤコホテルに36名が集って盛大に愉快に歓談し、互いの健康を気遣ったり動きましたりの一日でした。集合写真はその時のものです。

私も昭和25年に上京して60年、東京暮らしの方が長くなり、来年は満80才、母校も90周年ということで、今昔の懐かしさ、それだけに産土の香り溢れる同級生の集りは懐かしく目につく、可能な限り出席するようにして居ります。反面、郷の曲のように少しずつ欠けてゆく淋しさも味わざるを得ない場にもなっておりますが、社会人としての大学の同級生の集まりとは一味違った美しいものを感じます。やはり、郷土の同級生の意味は重く大きいものと思えますし、会えば元気が出ます。これからは、元気な者が居る限りこの集まりが続くよう心から願って居ります。そして、そんな意味でも、私にとって長生きへの動機付けとなって居ると感じて居ります。

(中村 茂八郎 記)

中村茂八郎

34年卒同級生

昭和三十四年卒、辰年と巳年生まれの我々は、今年六月三日、四日古橋記念同窓会と銘つけて、鬼怒川温泉一泊バス旅行を開催し命の洗濯をして来ました。8年振りのせいか参加者が思ったより少なく19名の少数精鋭となりました。8年振りのせいか、ひと風呂浴びての宴会では、飲むほどに酔うほどにエンジンがかかり、マイクを離さない者、コンパニオンをひとり占めする者、時事問題に熱弁を振るう者、女性酒歴を吐

露する者、自分の意味や健康法を押し売りする者など般見され、それぞれが個性丸出しのはだかの側面を出したりしていました。宴のクライマックスは、全員で合唱した青春歌と校歌でした。幹事が用意してきた歌詞を会場ついに貼り出し、全員で胸を叩き合い青春歌3曲を歌ったあと、思い出の校歌を声高らかに歌い上げ、何んともいえない満足感に包まれ、至福の時を共有しました。

翌日は、日光東照宮へ回り、ちょうど特別公開中の家光公の大猷院廟を見学しました。杉木立の中、癒しの霊気を全身に浴びながら、心に思い出のページを加える旅になりました。二年後の再会を約束し夢の世界から、現実の世界へとキアチェーンし、申し訳し程度の手土産を手土産につきました。

(山田 中記)



支部活動

明和支部

創立90周年に向けて
同窓生のネットワークを
広げよう

明和支部長 小平 進

同窓会は、かつて青春時代を同じ学舎で過ごした人たちの人間と情報のネットワークを広げ、私たちの人生を豊かなものし、社会で活躍する上で大きな力にもなります。

そんな考えもあって二〇一一年の館林高校の90周年の節目に向けて、明和支部同窓生のデータベース化から始めてみたいと考えています。



同窓生の情報構築を進めていく前段階として、平成21年度の明和支部同窓会にて、日頃各支部の同窓会に参加させて頂き、記録写真を揃っていただいたものをデータベースにより紹介しました。

その概略内容は

明和町のランドマークでもある水塔（写真）より始まり、懐かしい母校正面玄関、旧校歌の一節を紹介し、そして永遠に変わらない人生行路のコンパス

の目印となる、北極星をかたどった母校の徽章、各支部の懇親会風景等を紹介しました。

まさにIT時代でありその情報環境は整っています。方法によってはデータベース化は可能かと思えます。同窓生の情報構築を進めていくことが母校発展、同窓生の活躍のためにも大変大切なことと思えます。

同窓生の皆様のご協力よろしくお願ひします。

東京同窓会

会の若返りに更なる努力を！

会長 大隈 清道

財務の窮乏に久しく悩み続けた東京同窓会ですが、このところ漸くその窮乏から脱却の兆しが見え、ホッと一息の吐き出しです。しかし、そんな一息も束の間当会最大の危機「若返り」に直ちに全力で臨まなければならない状況下にあります。

幸いなことに、会からの連絡に対し、若い世代の反応は強くなってきました。

懇親会、納涼会、総会といった催しへの参加は少ないものの、呼びかけに対するレスポンスは増えてきています。高ばしい限りですが、今後は若い世代向けの企画を更に増やし、密な連絡を取り続ける努力が欠かせないと感じます。

この数年、逝去されたり高齢を理由に催しに参加されなくなった会員の数は少なくありません。それを思うと当会の現状が未だまだ予断を許すものでないことを実感します。若返りに向けた地道な努力が今後も長期的に必要であるというのが当会の実情のようです。

太田支部

近況を得る場の活用

太田支部長 大杉 幸一

今年度の太田支部同窓会並びに懇親会を、平成二十二年二月十七日に開催いたしました。今年度二十一回を迎えることができました。これも諸先輩のご尽力により今日に至るものと感謝致しております。支部総会とは毎年二月の第三水曜日を設定し開催しております。

今回は、例年になく多くの参加がありました。特に若い方の参加があり少し活気を感じました。

若葉同窓会長の本部活動状況、猪熊校長の学校の現状、河内大泉支部長、島田田原町副支部長から支部の活動報告を頂き状況を伺うことができました。

社会の情勢は別に置き、身の回りのことが話題となり、退職後に始めた趣味などは若い方の参考となった様子で有意義な時間を過ごせた懇親会となりました。支部活動は親睦を主とし支部総会と懇親会の充実を図るとともに、同窓会懇親会ゴルフ大会への参加や、本部同窓会総会への出席について積極的に協力しております。

大泉支部

みんなで元気にやっています

館長 河内初光

昨年、大泉町は合併することもなく、当同窓会も今まで通りの形で元気に活動を続けております。

昨年は、お隣様で12名の方が入会してくださり、目標会員数の一ちり名にもついでに達します。

活動は、当会関係では新年総会・親睦会、名簿や会報の発行、ゴルフやグラン

ドゴルフ大会、自前役員会・納涼会など、本部関係では総会・親睦会、ゴルフ大会などへの参加。

各支部との交流も盛んな事ですので、各支部総会・懇親会にも参加させて頂いております。

第31回大成祭（文化祭）に参加させて頂き、40年ぶりの校内拜講大会も実に懐かしく聞きました。立派なものです。

「ささやまのまはるびり」です。来年は、母校創立90周年です。心から祭典を祈念いたします。

千代田支部

レスリング松本兄弟そろって
世界選手権大会に出場

千代田支部支部長 武井 章良

このたび千代田町赤岩出身の松本隆太郎さん（24）、黒史さん（22）兄弟がモスクワで行われる世界選手権大会に出場が決まりました。同窓生一同心より喜んでいました。また、昨年紹介しましたキリンビール社長の松本幸一氏の講演会が千代田町民プラザにおきまして盛大に行われ、五〇〇名もの聴衆が集まりました。その際、若葉同窓会会長と猪熊校長のお二人もお出で頂きありがとうございました。その後、千代田支部役員の方々や町長、教育長および議員さんと共に宴会で夜遅くまで高校時代を懐かしく語り合いました。

さて、千代田支部では年に一度、春に総会を行っています。

今春は東栗として若葉同窓会長、猪熊館林高校長、近藤支部長の参加に加え、松本教育長さんも参加してくれました。それに合わせてゴルフ及びランドゴルフを行い、会員相互の親睦を図っております。今春（平成二十二年）の例を準

げると、総会には新田家（赤岩）で行い、参加人数は約三十名でした。

ゴルフは上記ゴルフ場で行い、十二名の参加者と和気藹々のうちに終了しました。また、ランドゴルフは東栗運動公園で行う予定でしたが、雨のため中止になりました。一般に参加者の高齢化が懸念されていますので、若い人たちの参加を期待しています。

来年も役員の方々がお誘いの用紙を持って伺いますので一人でも多くの同窓生の皆様のご参加を期待しています。

板倉支部

世代間を越えた交流に期待

板倉支部長 鈴木 攻

平成二十一年度の支部総会が二月十一日に行われ、若葉同窓会長、猪熊校長、近藤各支部長の御参加をいただき盛況に催されました。特に今回は東京同窓会から鈴木敏男前会長も多忙の中参加され、東京同窓会の現状等伺うことが出来ました。前会長は地元板倉出身で十二年来に日々会長職を務められましたが、その間平成十八年には創立二十五周年の式典及び記念誌（五百頁）を発刊され東京同窓会隆盛の礎を築かれました。現在もその卓越した行動力で多方面で御活躍されております。さて、当支部では「一人でも多くの参加を」スローガンに同年代のリーダーに呼び掛け人を依頼しております。徐々ではありますが若い人達の間にその効果も表れております。反面、これまで牽引してきてくれた大先輩の参加率が年々下がっているのが気がかりです。先輩も後輩も是非年代を超えた相互交流に協力いただきたいと思います。

場 登 師 恩

あれから四十三年

安藤 亮三 先生



私は昭和八年、東京都山手区の新大塚に現在七十七才まで生きています。

館林は私にとって最初の塾の先生であり、また現在も年に数回合歓の会のために訪れていることであらう。私にとっては大変世話話になつてゐる初めです。

館林の在籍期間は三十二年から四十二年の十年間、その間は約四年外に板倉分校三年間の勤務、三回と現在には経済社会関係、国民の自衛隊の変化、公共施設整備等あらゆる面で大きく変わつています。当時の私は二十五才前後の血気盛んな年頃であつたので夜間の授業が終わる

と行くのり出し、飯塚・小沢先生の指導を受けたあつたことは決して忘れないでいよう。この辺で在校生のために何か出来ることを考へなければならぬ。在校生諸君はこれからの進路についていろいろ悩んでゐるものと思う。人生に備へてはならない、自分の適性に合った進路とする分野に導くのが一般であらうがその選択は意外に行つてゐる。

「公認会計士」の資格を得るわけでは無いが私の思いと文字を通じて語り合つていよう。

「公認会計士」は上場会社等には其の無い企業の内務が適正かどうかを判断する職業である。しかしこの職業は「数字」とはいいながら少なくとも「計算」を以ての好むでないところにもならない。在校生にこれらの分野に興味のある生徒は是非この道を志すのであつた。

安藤亮三は、昭和八年から現在まで、職業の道を進んで来た。安藤亮三は、職業の道を進んで来た。

あの頃と今と

石川 康弘 先生



あと半年ほどで、ほぼ五〇年開校した教員生活に終止符を打ちます。この三一度にわたるケンブリッジ大学での在外研究と、わずかに数ヶ月ながらスコットランドのスターリング大学で過ごした研究生生活の思い出は日々鮮明化の進行する脳裏にも未だ鮮明です。

館林に在職したのは確か二十歳前後半のはんの数年間で、實際には母校の後輩諸君のために何もしやれなかつた後ろ

めたさを感じています。今ならもっとゆとりを持って、クラスみんなの自主性を活かした授業も出来たのでしようが、あの頃はただかみむしりに英語を教え込もうとしていたかような気がしてなりません。

そんな中でラングルや山形等の諸君と歩いた足跡や白木、秋父の山々、南アルプスや朝日、安達太良連峰などの峰々は忘れようもありません。三宅島では海抜わずか八〇〇メートルのちよつと山頂の道に道を歩いた思い出が鮮明です。

「丘には燃ゆる・・・」

魚住 明夫 先生



教員生活の中で最高、不思議と疎木との交際が交錯する。

砂浜の砂に覆いつくす初恋の痛みを強く思い出さる日々

自然環境の素晴らしさは、進学講演で来校した紅文社赤尾好夫・J.B.ハリス、岡氏の「この環境では進学指導は無理です。」「とが誇りにして如実に表れている。地域の人情の厚さもそれに劣らさず印象に残るものがあった。赴任時、校舎や講の殿堂としての講堂が改装、工事の時騒も

講師も気にならず、生徒の自己表現のための学習指導、太田分校から五十年経た五十年史の編纂と夢中で取り組んだ。

若かりし日々

鈴木 実 先生



20歳代後半、昭和50年代の9年間在籍した。血気盛んな時で、生徒に燃え盛るし神を自在に操りながら授業を展開して来た。今振り返ると授業も生徒の指導も本当に未熟だった。あつたのは若さという勢いだけだった。よく言えば試行錯誤の時期であつた。その中で飯田完治、田部井源蔵先生の影響を受けた。授業時自信が持てるようになったのは、物事に動くし、教員生活を送ってきた頃であつた。

館高の思い出と言えはやはり五十年口強歩だ。この頃の元は当時20歳代の講師

復部、小浜信一先生と酒を飲みながら出てきた話で、その後相沢繁光先生に相談し昭和54年に実現となった。酒を飲んだのが館高の伝統的な行事になるとは・・・である。

井読部の活動も印象に残る。館高主催の井読大会に向けて台帳をしたり、部員との雑食を共にした楽しい日々が忘れられない。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

「男の意気」とは、世の宗教者が口にする。晴れ住し、雨の日もまた住し、という気概をもつことか、あるいは、自立、自学、などと意味づけしてみたりする。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

鈴木先生には、昭和八年からの夢まで、職業の道を進んで来た。

平成二十二年 同窓会本部役員

夢 与 矢口 昇 (二十五年卒)

谷津 豊男 (二十八年卒)

松本 研司 (三十八年卒)

安楽岡 一雄 (四十一年卒)

猪熊 仁 (母校校長)

副会長 岩瀬 芳市 (二十五年卒)

小嶋 泰男 (二十六年卒)

宇治川 福司 (二十七年卒)

山崎 浩志 (二十八年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

山崎 博 (二十九年卒)

O B 登 場

思い出

26年卒 小林 淳一



一九四五年(昭和20)春、私塾の印刷中学校生活は、入学式が日本朝に学校が区画整理の計画によって空襲の洗礼を受け、入学式もその後の空襲で焼けた跡片付けから始まった。

一九五〇年(昭和25)秋、高校三年生文化祭実行委員に任命された。当時の戦中・戦後の混乱期で、学校には手紙もなく、戦後から藤井川牛車(市民に自動車を無償の貸し出し)を持ち出し、牛の尻を打ちながら舞台裏の大道員小道具の類を物置から取り、また、文化祭は今は想像も出来ない。また、文化祭に参加したと前年(一)の思い出を学校出

版に交渉した。簡明がないと送られたが自分達で直接彼女と交渉するつもりは許可を受け、実現させた。現在の物置的な記憶とは異なる時代であり、國にもつて異常な体感であった。彼女との行事交流史上初回は懐かしい思い出である。

一九六五年(昭和40)秋、ノンキャリア公務員13年と決別し、貯り、五月印刷を創業して4年。
その間、「書物に咲く花」(1964年・平成11年)、「読者生活に咲く花」(1964年・平成17年)文集等に執筆が出来ることは一度一人である。読者生活三回卒業生はすべて人間として対等である、という信念の下に企画出版されたもので、一学年の実績としては読者の歴史と前例がない、と賞与されている。

現在、オーナー社長という立場を過ごし、生涯現業をモットーに後期高齢者78歳の自分の都合合わせた印刷業現業生活を楽しくしている。今の立場である。

小林氏は、公務員時代の中央省庁第三学級卒業、NPO法人日本出版センターの代表理事、自費出版ネットワークの代表理事、ライオン会理事、読者は読者、写真

軌跡

27年卒 田部井 健一



小学校六年、戦敗、教科書の天候大神のよに巻を巻くことを経験した。これが即座による自己発見の原点らしい。初めての修業費をもちって卒業した。

旧制館中、最後の入学、高校へと六年満った。送り出した少年航空兵も帰って来て、先生は何を教えるべきか解らない。世間も何もかもヒックリ返って混沌としていた。私たちは民主主義の第一期生として出発した。学校全体が開放されて、文化部も運動部も賑やかな生き生きと活動

した時であったと思う。私は社研と生徒会で創立者の自負のもとに積極的に働いた。

感謝と自然流

40年卒 健田 和彦



高校時代の思い出。そうだが確か「大成」があったはずだ。随分色あせたが、探し出した。

正門、木造校舎、体育館等の約半世紀前を思い出させる写真。「名山四方を取りめぐり」と思わず思い出した「校歌」。同級生や先輩方、人間性豊かな先生方の今でも当時のままの顔や姿。球技大会やスキー教室等の行事。これら全てが、心身ともに鍛えてくれた時と場、そして人々であった。

田部氏は、群馬県立館林第二小学校を卒業して定年退職。現在東京でカラー印刷、校舎の建て直し、読者は読者、写真

おかげで、職業観や勤労意識の基礎が育まれ、就職の仕事は定年まで成し遂げることが出来たと、今思っている。

一方、三年の十月十日から十日間、「東京オリンピック」が開催された。購入したばかりの自來テレビで連日放送の競技を夢中で見たり、バスケットやサッカー、陸上等を観戦に出かけたりしていた。大学入試の勉強はそれが終わってからで十分と自己判断し、周囲には随分意味を言われた。それ以来無理をしない「自然流」が身に付き、沢山の失敗も重ねてきた。しかし、現在の生活「自然消滅」の自然流を生み出して来たとも言える。

健田氏は、群馬県立館林第二小学校を卒業して定年退職。現在東京でカラー印刷、校舎の建て直し、読者は読者、写真

●今年のゴルフ●

「同窓会ゴルフコンペ」開催される

第十回館林高校同窓会懇親会ゴルフコンペが五月十二日(水)板倉ゴルフ場で開催されました。

同窓会員一七八名の方々に案内状送付し九八名のプレイヤーで競技が行なわれました。上は昭和四四年、昭和五五年卒と巾広い方々が集合いたしました。遅れることもなくスムーズにプレーが進行できました。

地区別参加者内訳は館林39東京17邑楽9太田8千代田7大泉6明和5二九福3板倉1佐波1足利1佐野1であります。

競技方法 新ベリアPAR+3
打数制限

成績は、次の通りです。(敬称略)

- 優勝 廣井 栄作 (館林) 71
- 準優勝 河内 初光 (大泉) 72
- 第三位 小幡洋次郎 (足利) 72
- 第四位 戸ヶ崎秀雄 (邑楽) 72
- 第五位 中村茂八郎 (東京) 72
- ベストスコア 小幡洋次郎 (足利) 76

○歴代優勝者

- 第一回 大隈 允雄 (館林)
- 第二回 三田 成男 (東京)
- 第三回 表坂 宏 (館林)
- 第四回 小久保 清 (千代田)
- 第五回 荒井 昭 (東京)
- 第六回 相澤 繁光 (館林)
- 第七回 高沢 時雄 (太田)
- 第八回 相沢 健志 (東京)
- 第九回 龜山 進一 (館林)

●来年のゴルフコンペは●

期日 平成23年5月11日(水)
会場 板倉ゴルフ場
参加申し込みは同窓会事務局へご連絡下さい。案内状をお送りします。

「同窓前世代」の思い出と責任

37年卒 萩野 嘉弘



昭和34年4月の入学ですが、入学直後の4月10日は東大で成道で学校は休校、知人宅のテレビで馬車パレードをみました。翌年は、60年安部の年で、HJでクラス討論があったような気がしますが、3年生の時に新校舎が一部竣工し、佐藤善夫作詞の新校歌が作られ、佐藤善夫の講演がありました。内容はすっかり忘れましたが、大きな耳の人だったことだけは覚えています。

3年のクラス3Aは、担任の由良

氏には、東京大学経済学専攻卒業、学歴関係に於いて、その後東京大学経済学専攻科に在り、九州大学経済学専攻科を経て、現在、下関市立大学長に在籍中。

萩野氏は、公務員時代の中央省庁第三学級卒業、NPO法人日本出版センターの代表理事、自費出版ネットワークの代表理事、ライオン会理事、読者は読者、写真

O B 登 場

白分に素直に

46年卒 森田 則行



当時を振り返りますと、私が尊敬していた英語の先生が「文学の研究のために、もっと語彙が欲しい」と苦悩されていた場面が蘇ってきます。そして私自身の心が強く響かされたことが忘れられません。後に先生は任意退職し、ご自身が決断した道を邁進されたようです。「人は夢を断念してはならない」。先生の行動は、私に少なからぬ影響を与えてくれました。

その頃の私は、普通に授業に出た、深夜放送ラジオを聴いていた普通の学生でした。図書館で文庫の作品を手に取り、文学青年気取りをしたこともありました。やがて卒業間近となり、幼少の頃から都会への憧れと焦燥は最大に増幅していききました。

地域に根ざして深耕する人へ向かう人、人は天々です。大事なことは、今の自分を受容できるかどうかということではないでしょうか。仕残しだけは無い人生を送りたいものです。

森田 則行、1974年群馬県庁の秘書として3年に入社、ライオンで秘書、高専教諭を経て、2007年退職後現在群馬県に在住、現在は、2つの男子テニス、ソフトテニス、ゴルフ、大の読書、植物に熱中する。

12年間を振り返って

48年卒 野村 靖三



13年前の暑い夏の白でした。11月下旬に群馬市長選と市議補欠選があり、立候補を予定し準備をしている人の名前が掲載されている、ある地方紙に目が留まりました。定数2名の補欠選挙に4名が準備、その中に自分の名前があり凄く驚いたことが今でも思い出されます。それから12年、あつという間の12年でした。20世紀から21世紀へと時代が移り、高速通信システムや若手高齢社会へ対応する変革が叫ばれ激動の激しい時代ですが、

先解・同僚議員のご指導とご支援をいただき11年目に副議長、12年目に議長に就任させていただきました。又、群馬県市議会議長会会長の持ち回りにより前任者から市議会議長会会長を引き継ぐことになり、半年間その重責を担う大変貴重な経験させていただきました。

昨年、国政では政権交代という大波紋が起こりました。地方自治に関与する私達は、国の目指すべき方向が先行き不透明・不安定であります。道州制や地域主権が叫ばれている今、地域福祉や地域経済を支える地方自治の発展のために、今後も全力で諸課題に取り組みで行きたいと思っております。

野村 靖三、立教大学社会学部卒業、群馬県に入社、野村 靖三、群馬県市議会議長に就く、平成15年、市議会議長にトップ目録、野村、市議3期、平成22年9月より市議会議長。

館林高校との関わり

49年卒 坂本 樹田



「なぜ自分か？」前科合戦を戦むと著者人ばかりで恐ろしいが、広く同窓生を紹介するのが趣旨と悪い依頼を受けました。昭和40年入学、館林高校の同窓生でした。大成会で五十周年記念「伝説ある高校」だと誤解し、当時人気作家佐田川氏の講演会があり、クラス別に代表行列して三の丸グラウンド（興文化会館）までパレードしました。街道沿いの人々に敬愛されて嬉しかったです。

大学入学後は通子説明会に呼ばれて、勉強対策でなく資料大学の様子を見ました。館林と坂本家の関わりは、今年4月8日彼が他界した大叔父坂本政次が旧制中学卒です。子供は女子2人です。次女が平成20年全国高等学校総合文化祭群馬大会伴講の部（群馬県立）で野村先生に指導を受け、全国2位文化祭賞状を受賞する「1」ができました。

すべての人の社会を

50年卒 蘭部 英夫



蘭部にはまだ早い頃、城沢の地で新聞部の仲間たち6人が合宿した。夜を徹して語り合ったのは何十年ぶりだ。ホームルームで控った女子高生の手の温も、京都・筑紫の修学旅行、米は持つてったかなあ、新聞部って面白かったらいいな。卒業後またその三五年があるのだから、高校時代の三年間は濃厚でやけに懐かしい。

守り促進役割をめぐって全国障害者福祉研究会の常務スタッフとなった、三十年近く事務局を務めている。どんなに障害が重くても、「この光に」世の光に」は先達からの「バトン」であり「ミッション」だ。憲法・障害者自立支援法では、障害福祉に権利として、「二三四名の障害者と」と首相官邸を訪問。鳩山首相の「こゝろからの「返書」を書いた。

毎日勉強！ 昭和51年卒 富塚 基輔

昭和40年、今から37年前の春です。館林高校の門を初めてくぐりました。この年は今年と同じくらいまでも桜の花が散らない遅い春でした。

富塚 基輔、立教大学社会学部卒業、群馬県に入社、富塚 基輔、群馬県市議会議長に就く、平成15年、市議会議長にトップ目録、富塚、市議3期、平成22年9月より市議会議長。

館高Now

館高EcoFest 栄光をつかめ 大成祭行われる



去る七月十七日、十八日の二日間にわたり3年に一度行われる「第三十一回大成祭」が実施された。今回のテーマは「エコと成長」、スローガンは「館高EcoFest 栄光をつかめ」である。全日制の各クラス・定時制・各文化団・団体等で、趣向を凝らした発表・演技・演奏・調理販売などが行われた。同日共に猛暑の中、市内・近隣市町からの多くの来場者を迎え、各企画共に水銀柱の上昇以上の大きな盛り上がりを見せた。

注目の、来場者アンケートによる人気投票の結果は次のとおりである。

一位は二年六組「コーストエコシステム」二位は三年一組「伝説のヒーロー・エコーレジャー」三位は一年六組「Dance in The Ecolife」。

校内弁論大会復活!!

七月十七日、大成祭一日目に、岩瀬市同窓会会長をはじめとする多くのご来賓と審査員の先生方の立ち会中、第一回学年選抜校内弁論大会が開催されました。

弁士の生徒達は、それぞれの立場から自分の考えを聴衆に訴えました。結果は、第一位に二年生の大沢陽介



3年 山口 智彦
2年 早川 謙
1年 橋本 健一
3年 山崎 謙介
2年 大沢 陽介

君、第二位に二年生の早川謙君、第三位に一年生の相川和也君が選ばれた。この三名は十一月に行われる群馬県高等学校弁論大会に出場する予定である。

県大会では、今回の弁論に更に磨きをかけて、戦ってほしいと思います。

● 定時制だより

四月八日の夕方に挙行された入学式では、昨年度に次ぐ大人数の26名が入学を許可されました。今年の新入生は活発な生徒が多く、五月末のバスケットボールの県大会には、早くも複数の者がレギュラーとして出場しました。野球部にも核となるバツテリ一線選手が入部し、秋以降の大会出場を目指して汗を流しています。



さて、今年度の定時制ですが、在校生は62名(七月一日現在)で、ほぼ昨年と同数となっています。

一年生は授業中も、元気があって例年以上に活発ですが、学校全体としては今年も落ちついた雰囲気です。ほとんどの生徒が仕事の疲れも見せずに授業に集中して取り組んでいます。

62周年を迎えた開校記念の講演会は、昨年発明工夫のコンクールで全国二位の賞を受賞されたE.T.A会長の橋本健一(36年卒)先生にお話ししました。発明品を次から次に提示して生徒を引き込み、大病を乗り越えた決裂とした話で、厳しい競争の者にも前進する勇気を与えてくださいました。

部活動では、バドミントン部の女子がダブルスで三位入賞、シングルスでも四位入賞を果たし、1名が八月に小田原で行われる全国大会の代表に選ばれました。

進路状況

今年度の進路決定状況は、四年初次大学が209名、短大が2名、専門学校が4名、就職者が1名という結果でした。また、進学努力継続者は26名でした。

特徴としては、国公立大学と私立大学の両方に合格した場合、その数種の卒業生は国公立大学に進学することを優先していましたが、8名が私立大学に進学したことです。私立大学に進学した理由は、第一志望である私立大学に入学手続きを済ませた後、すでに出席している国公立大学も自分の学力を推認するために受験し、経済不況の中でも、納得のいく進路選択をした結果であるようです。また、進学努力継続者にも同様の傾向があり、合格した大学に入学せず、第一志望校合格を目指し、さらなる受験勉強を決定した者も複数名おりました。

なお、合格者が多かった大学としては、日本大学に31名、大東文化大学に22名、群馬大学に20名、芝浦工業大学に16名、千葉工業大学に15名、獨協大学に15名、日本工業大学に15名などとなっています。国公立大学の群馬大学としては、筑波大学や埼玉国立大学などに合格しています。また、就職継続私立大学である、早稲田大学に3名、慶応義塾大学に3名が合格しています。さらに、MARCHの合格者数は、明治大学が12名、青山学院大学が4名、立教大学が1名、中央大学が5名、法政大学が7名であり、合計26名となっています。

こうした結果は、成績上位者層が比較的厚く、複数大学を併願して受験したためであるということができそうです。

私立大学 (合格者数)	人数
南山学院大学	4
明治大学	12
中央大学	5
法政大学	7
東京理科大学	7
芝浦工業大学	16
日本大学	31
東洋大学	8
早稲田大学	3
慶應義塾大学	3
立教大学	1
専修大学	9
成蹊大学	2
同志社大学	3
など	414名

国公立大学 (合格者数)	人数
秋田大学	1
茨城大学	4
筑波大学	4
宇都宮大学	1
群馬大学	20
埼玉大学	4
東京学芸大学	1
横浜国立大学	2
富山大学	1
岡山大学	3
静岡大学	1
秋田県立大学	1
高崎経済大学	9
前橋工科大学	1
群馬健康科学大学	1
横浜市立大学	1
都留文科大学	2
静岡国立大学	1
下関市立大学	1
など	57名

進路先状況

	()内は前年度
国公立大学	48 (36)
私立大学	161 (159)
短大	2 (0)
大学校・留学	0 (1)
専門学校	4 (6)
就職	1 (6)
自営	0 (0)
進学努力継続	23 (30)
合計	239 (238)
進路決定率	90.4 (87.4)
大学進学決定率	90.2 (86.7)

した。い学向を学べる。大学選択をし、3カ年計画で、校風強く努力することにより、第一志望校合格を勝ち取ることができるとの考えです。

今後も、同窓会の皆さんの期待に応えられるよう、進路指導をしていきたいと考えておりますので、どうぞご支援のほどよろしくお願いたします。

館高Now

部活動状況

今年度の県高校総体には14競技が参加し、総合第20位(得点32・5点)であった。

なかでも伝統あるレスリング部は旧馬場、小林真也、中村旭昇、松崎俊樹、関谷雄太郎、中野貴大と昨年を下回る6名が関東大会出場を果たし、学校対抗でも第3位に入賞した。

また、水泳部は北島隆貴、塩田悠人、船倉理、矢口琢也の4名、陸上競技部は横山武也が関東大会出場を決めた。なお、大会実施は昨年度の11月だが(得点は今年度の成績に

【硬式野球部】
今年度は3年生16名、2年生15名、そして過去最高なのではないかと思えますが、1年生が27名も入部し、50名で活動を開始しました。

今年度のチームは、昨年の秋季大会が3回戦敗退、今年の春季大会は初戦敗退と公式戦で結果が出ませんでした。練習試合でもそれほど力の差がない相手に、本来の力が発揮できず敗れてしまうことも多々ありました。その一方で、甲子園常連校の常盤学院とO対一の接戦を演じてみたり、昨秋の大会で苦戦をなめた館林商工との試合では逆転勝利を収めるなど可能性を感じさせるチームでもありました。

そのような不安定な状態からの脱却を目指し、課題を一つ一つ解消するために集中して練習に取り組んだ結果、7月の選手権群馬大会では9年ぶりのベスト8へ進出することができました。真摯な態度で文武両道を果たしてきた3年生と、その姿を継ぐ成長してきた2・1年生が一丸

【サッカー部】
今年度は、3年生33名、2年生26名、1年生25名の総勢74名で活動しております。新入部員(ベスト8)位、県総体ベスト16、インターハイでは初年第一に敗れベスト32と群馬県内の力が拮抗している中、あともう一步のところで勝ち切れず残念ながら思うような結果が表れずにいます。全国高等学校サッカー選手権大会では今までの悔しさをぶつけ、上位進出を狙って頑張りたいと思います。

【陸上競技部】
今年度は計20名で活動しています。競技力も年々向上し、県総体800mで第5位に入賞、4x400mRでは第8位という成績を残しました。また、昨年度は400mで関東大会出場、さらには駅伝で本校創立以来初となる入賞を果たし、関東大会の出場権を獲得しました。私達は競技者である前に高校生として、人間性の向上を第一の目標に掲げ、日々活動しています。今後とも目標の指導を賜りますよう、宜しくお願いたします。

【柔道部】
現在柔道部は、3年生2名、2年生5名、1年生3名の計10名という少人数ながら、力を合わせて日々練習に励んでいます。六月に行われた関東大会では、舵付きオールドブルで3位、ダブルスカルで2位に入ることができました。今年度の目標は、団体に出場し、上位入賞をすることです。そのためには、部内での競争が必要不可欠です。お互い切磋琢磨しながら、部員一丸となって、戦っていきたいと思います。また、部活動を通して、競技力だけでなく人間形成の場として色々なることを経験させてあげたいと思っています。

【レスリング部】
今年度は、3年生3名、2年生1名、1年生4名の総勢8名と部員不足が解消されず、学校対抗戦においては難しい状態が続いております。しかし、新入生の四名はジュニアのクラブチームでの経験があり、即戦力として大会においても活躍を見せてくれました。また、限られた環境と時間の中で自分の役割を明確にし、集中して練習に励んでおります。

【西郷将棋部】
今年度西郷将棋部は、3年生2名、2年生14名、1年生11名の総勢27名で活動しています。今年度も将棋を指す部員がほとんどで、将棋を指す部員はほとんどいないのが現状です。そんな中将棋のほうで輝かしい大会成績を収めています。

【バスケットボール部】
今年度は、群馬県高等学校バスケットボール大会決勝で酒井と対戦し、酒井が準優勝となりました。酒井は群馬県代表として宮崎県で行われる全国大会に出場することになっています。

【レスリング】	旧馬場、小林、中村、松崎、関谷、中野の6名関東大会出場
【サッカー】	学校対抗 3位
【ソフトボール】	3回戦敗退
【陸上競技】	4x400mR 8位
男子子 800m	5位 横山 洗也
関東大会出場	
【ボート】	
ダブルスカル (庄橋・内田)	
舵手付きオールドブル (大出自井)	
松島小松原(小林)	
関東大会出場	
【バレーボール】	
2回戦敗退	
【バドミントン】	
個人戦	ダブルス(浅尾・坂上)
団体戦	ベスト8
【バスケ】	
個人戦	ベスト8
団体戦	ベスト8
【ソフトテニス】	
団体戦	3回戦敗退
【山岳】	
10月/12校中	
【軟式野球】	
ベスト8	
【卓球】	
シングルス入賞	4回戦 2名(山田、大塚)
団体戦	1回戦敗退
【バスケットボール】	
3回戦敗退	
【バドミントン】	
個人戦	2回戦 5勝
団体戦	3回戦 6勝
【空手道】	
個人戦(形の部)	
1回戦	1名
2回戦	1名
個人戦(組手部の部)	
1回戦	3名
2回戦	3名
【剣道】	
個人戦	1回戦 2名
団体戦	2回戦 2名
3回戦敗退	
【水泳】	
夏の大会であり、今後実施予定。	
【硬式野球】	
春季大会 初戦敗退	
夏の大会 ベスト8	

今年の館高同窓会(総親睦会)は11月13日(土)

～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で12回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合ってお出かけください。好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和52年卒業生たち



↑昨年の総会で「来年もご参加下さい」と呼びかけた今年の代表幹事の皆さん

日時：平成22年11月13日(土) 午後5時

会場：ジョイハウス (TEL.0276-73-4669)

○参加券は総会幹事(下記)、本部役員、支部長さんからお求めください。
(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

平成22年 総会幹事

48年卒	47年卒	46年卒	45年卒	44年卒	43年卒	42年卒	41年卒	40年卒	39年卒	38年卒	37年卒	36年卒	35年卒	34年卒	33年卒	32年卒	31年卒	30年卒	29年卒
大沢 孝	山岸 雅彦	早川 元久	津布久廣典	遠井 隆	野村 博久	遠藤 和昭	神田 静一	伊藤 昌三	今成 勲男	白井 佳良	白井 秀雄	宮内 賢夫	大塚 幸雄	山田 幸	中島 大八	岡野 上	川生 宏	山口 勝巳	新井 耕一
原 康治	井出 豊弘	久保田康也	岡沢 昭登	藤江 勇	藤原 清幸	橋岡 正	清水 輝夫	橋山 哲也	小宮 悠雄	高橋 雅	和山 平明	小林 実夫	小林 実夫	藤田 勝	石井 昌雄	青藤 一夫	青藤 保男	藤原 保男	長野 文雄
吉永 敏昭	金子 博	黒沢 信幸	中島 清	日比野正孝	早川 紀正	近田 達彦		初谷 亮吉	岩坂 亮吉		小林 廣吉	増山 要司	長谷川三博	千島 和雄				増山 芳弘	

事務局より

●総会幹事をこの推薦ください。上の総会幹事の欄で、空欄のある学年は補充する方をご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

●次号の同窓会報を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送り下さい。

□座番号 005050027-025033

□座名 群馬県立館林高等学校同窓会

●今年度の事務局員は、和泉、田口、森口、桂木です。

●会報編集委員は、山田、飯島、前山、山岸、遠藤、藤倉、美部、和泉です。

49年卒	48年卒	47年卒	46年卒	45年卒	44年卒	43年卒	42年卒	41年卒	40年卒	39年卒	38年卒	37年卒	36年卒	35年卒	34年卒	33年卒	32年卒	31年卒	30年卒	29年卒
長澤 勉	中島 和典	始澤 勝也	和泉 祥	和泉 祥	金子 政重	金子 政重	杉田 光華	坂井 雅明	野村 謙之	野村 謙之	小島 吉己	岩沢 敏昭	渡辺 英治	中島 和典	金子 政重	坂井 雅明	野村 謙之	野村 謙之	小島 吉己	岩沢 敏昭
野村 謙之	石崎 治	始澤 勝也	和泉 祥	和泉 祥	金子 政重	金子 政重	杉田 光華	坂井 雅明	野村 謙之	野村 謙之	小島 吉己	岩沢 敏昭	渡辺 英治	中島 和典	金子 政重	坂井 雅明	野村 謙之	野村 謙之	小島 吉己	岩沢 敏昭
野村 謙之	初沢 智幸	始澤 勝也	和泉 祥	和泉 祥	金子 政重	金子 政重	杉田 光華	坂井 雅明	野村 謙之	野村 謙之	小島 吉己	岩沢 敏昭	渡辺 英治	中島 和典	金子 政重	坂井 雅明	野村 謙之	野村 謙之	小島 吉己	岩沢 敏昭

原稿募集

次号より、皆さんが楽しんでやっていることを紹介する「コーナー」の「たのしみ」を新設することになりました。川柳、読書、文芸、写真、絵画、音楽、ゴルフ、スポーツ、山登り、旅行、ボラティア、パソコン、釣り、園芸、剣道、囲碁将棋、カルチャー、ボケ防止や健康法、孫の世話、その他ジャンルは問いません。その面白さ、醍醐味、ご苦労、奮闘などを投稿して下さい。趣味探しの参考に、仲間への励みとして活用してください。

●原稿は、タイトル、享年、氏名、本文を適当な順番に書いて送ってください。本文の字数は、写真や図表ありの場合は四〇〇字以内、なしの場合は五五〇字以内。

●送付先は同窓会事務局へ。

●締め切りは22年4月末日です。



新コーナー

発行 群馬県立館林高等学校同窓会
〒374-0041 群馬県館林市東十軒町二二四一
☎0276(七)二四三〇七
FAX0276(七)二七一一〇